
想像霊界

RYUNOSUKE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

想像霊界

【Nコード】

N2965Z

【作者名】

RYUNOSUKE

【あらすじ】

夏休み前。俺は図書館で既に出された夏休みの宿題と戦っていた時だ。

「お兄ちゃん！当たったよ！」

妹がインターネットでの懸賞に当たったらしく。夏休み、旅行に行くこととなった。

行先は：不明。ミステリーツアーだ。

ミステリーという響きにひかれてではなく、妹の付き添いで参加した旅行だった。

俺達、変な事に巻き込まれたようだ。
世界が止まっちゃったんだからな。

電車で揺られている。

たまにくるガタン、ゴトンという振動が気持ちよく、寝てしまいそう
だ。

て言うかもう寝ている。

こんな事を考えているのだから寝ている訳ないだろ、と思うが俺は
寝ている。

夢を見ているからだ

ブラックホールに吸い込まれそうな宇宙船の船長

それが俺が今見ている夢。

「お兄ちゃん、早く起きて、着くよ」

現実世界で妹の声が聞こえる。夢世界では船員が俺に言う。

「船長、このままでは吸い込まれます！」（夢）

寝ているので夢世界の声の方が現実世界より聞こえやすい

「大丈夫だ問題ない。俺に任せろ。」

これが俺の出した答え。夢世界にだけ言ったつもりが現実でもそう
言ったらしい。

「ダイジョウブじゃない！早く起きろ！」

両頬に痛みが走る。つねられた。俺はゆっくり目を開ける。

まずは状況確認。

・荷物は俺も妹も寄進と持っている OK

・妹が怒っている ほっといちゃいけないが、とりあえずほうっ
ておく

・電車のドアが開いている どのかの駅に着いたんだろう

・ドアの上の電光掲示板には俺たち二人の降りるべき駅の名がある

…！

以上の事を総括すると…

「お兄ちゃん、降りるよ」

妹はそう言ってさっさと降りてしまい、俺もゆっくり立ち上がる

「早く!」

「ハイ!」

ちようどそこで”ドアが閉まります。ご注意ください”のアナウンスが終わり、俺はダッシュで降りようとするが…

ドガッ

「うっ…」

ドアに挟まれた。

目の前の妹は怒った顔でため息をついて

「お兄ちゃんのバカ…」

小さな声でそう言い改札の方へさっさと歩いて行ってしまった。



夏休み前…先週にサプライズがあった。

期末テストの復習はすでに終わらせていたので、既に出された夏休みの宿題を近くの図書館でやっている時だ。(高校生にもなると宿題が多いんだよねあゝ。)

どんな所にも“ルール”というものがあり、その時俺がいた図書館にももちろんあった。

・飲食禁止

・本は丁寧に扱う

他にも色々あるが、すべての図書館共通の、鉄のルールがあるとしたらこれ

・騒がず、他の人に迷惑をかけない

このルールがあるおかげで図書館はとても静かで、俺を含めたすべての図書館利用者は快適に本を読んだり、勉強したりしていたのだ

が…

「お兄ちゃん！やったよ、わたしやったよ！」

…静寂は破られた。音源は俺の横に立っている少女、つまり俺の妹だ。

「おい、アホ、ここは図書館だぞ。静かにしろ。」

「へっへっへー、聞いて驚くな。なんとなんと！」

俺の言葉は全く耳に届いていないらしい。あとおれの人差し指を口に当てている”静かにしろ”ジェスチャーも気づいてない。

「なんと！…って、相槌うってよ…」

「ああ、ゴメン…じゃない、ちよつとこっち来い。」

「ヤメロキサマナ#%&\$@」

収まりそうにないので妹の口を手で押さえて強制連行。図書館の外へ流刑だ。

妹が手足をバタつかせて俺の手から逃れようとしながら、「ム」
とか「グー」とか言っているがここは図書館。静かにできない奴は外へ連れ出す。

暑い。流石は日本の夏。空は晴れて雲ひとつない良い天気、って良い天気すぎるよ。

本日の雲の勤務時間に昼は入っていないとお天気おねえさんは言っていた。雲もたまには真昼間に顔を出してくれてもいいのに。恥ずかしがらずにおいでー。くーもやーい。

外に出たところでやっと妹を解放する。

「プハハ何すんのお兄ちゃん。危うく窒息しそうだったよ」

「スマンスマン、でも図書館であんなに騒ぐお前が悪い。気をつけろや、おかげで注目の的だ。」

妹は反省した顔になったが、

「ごめんなさい…でも、すごいんだよ。旅行だよ、旅行に行けるん

だよ。」

すぐ笑顔に戻った

「嘘つくために図書館で騒ぐなよ。」

嘘だとすぐわかる。なぜかって？うちは貧乏……じゃないな、お金が無いからだ。

幼い頃俺たち兄弟二人は両親を亡くした。本当にちっちゃかったころの事だ。顔なんて覚えていない。

今は定年退職して年金をもらって生活している祖父母と暮らしている。

流石に年金じゃ生活できないので、二人はパートに出て、そのお金で生活している。

高校生一年生の俺と中学三年生の妹の学費がかなりかかるからだ。

俺は中卒で働こうとも一時期考えたが、祖父母が「お金のことは心配するな、大丈夫だ。」と言ってくれたおかげで俺はいま高校一年生。

そんな家庭状況なので旅行に行くお金なんて全然ない。宝くじにでも当たらないと無理だが、外れた時がもったいないので宝くじは買わない。

よって旅行に行くなんて夢の話。すなわち妹の言っている事は嘘。

ハイ、この話はこれでおしまい。

「ちょっと待った————！！！！」

俺が夏休みの宿敵のもとへ行こうとしたら、妹はそう言って俺の腕を両腕と胸で抱き締めた。逃がさないという意思表示と受け取る。

「嘘じゃないよ本当だよ！」

あ：ちなみにこの時俺の腕は胸には全然触れてなかったぜ。

理由は単純。俺の妹：彬^{りん}には胸が無いからだ。

まさにペツタンコ。まさにまな板。（これ言うとな怒るから口には出していない。）

本人はかなり気にしているようだが、その意志とは裏腹に、その胸は”発育”という単語を放棄した：いや、元からなかった：みたいな感じだ。

可愛い童顔と低い背とのおかげで実際の年よりかなり幼く見える。
ロリコン野郎はイチコロだ。

え？俺はどんな感じかって？聞かないでくれよ。”普通”としか言えないんだから。

名前？ああ、まだ教えてなかったな。練^{れん}だ。名字は：教えなくても良いだろう。

話がそれたな。戻す。

彬の顔が真面目だったので聞いてやることにした。

もちろん、この真夏の炎天下の下で立ち話つてのは流石にいただけないので、家に帰って俺の部屋で聞く。（クーラーは付いてないけどね）

部屋に腰を下ろしてすぐに、彬は話し始めた。

「えーとえーとお：どこから話せば：こないだケンチヨ：懸賞に：」
「落ちつけ、深呼吸しろ」

そう言われた彬は二回深呼吸して（それでもまだ興奮していたが）話し始めた。

どうやら懸賞に当たったようだ。小学生から大学生が対象のミス터리ツアーのペアチケットに。

夏休みにどっかに行けたら…と思ってインターネットで探していたところ、これを見つけて応募したらしい。

応募する時、祖父母の許可はとっていて、当たれば今日自宅に郵便であたった知らせと、チケットが届くらしい。

そして今、当たったという報告を受けている。

「でさー最後の関門がお兄ちゃんの許可なんだよねー。おじいちゃんもおばちゃんもお兄ちゃんが一緒に行くなら行ってもいいって。だからお願い！一緒に来て！旅行に行きたーい！このとーーり！」両手を顔の前に当てて必死にお願いしてくる。

練も旅行に行きたいのだから一つだけ問題があった。

学生にとって夏休みの敵…宿題である。

彼は決して真面目な方ではないが、宿題だけは必ずやる。

中学の頃、宿題なんてやらなくてもテストはできる。という理由で宿題を一切やらなかったら、高校受験の時、内申点がひどい事になったのである。危うく浪人するかと思ったが、それは何とか回避した。

今はとある国立大付属の高校に行っている。その理由はもちろん大学の受験費用を浮かせるため。

よって宿題ができないほどの期間だったら行けないというわけ。今年には特に量が多いらしい。

「いつあるんだ？」

「八月の一日から五日まで。四泊五日だよ。」

それなら大丈夫。今年の夏休みは思いっきりenjoyするか。

「いいよ。旅行いこっか。」

「ほんとう!？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2965z/>

想像霊界

2011年12月10日15時47分発行